

序論)

今日の箇所は恵みに溢れた 42 章の前半の預言とはだいぶ違います。

42 章の前半では「傷んだ葦を折ることもなく、くすぶる灯芯を消すこともない」と表現されていた、人々に癒やしと活力と救いを与える【主】のしもべが送り出されることが預言されており、そして、その【主】のしもべによって救われた者たちに対しては、「新しい歌を【主】に歌え」という、救いの歌を歌って、神様に栄光をお返しなさい。という命令が与えられていました。

この【主】のしもべとは、私達の救い主、【主】イエスキリストのことであり、このお方に救われる者とは私達のことです。

いふなればこの 42 章の前半の部分は、私達のような異邦人の救いについて語られていた箇所でした。そして、覚えていただきたいのは、神様は異邦人の救いについて語るとき、7 節とか、16 節のようにいわれたのです。読んでみましょう。まずは 7 節から

42:7 こうして、見えない目を開き、囚人を牢獄から、闇の中に住む者たちを獄屋から連れ出す。

42:16 わたしは目の見えない人に、知らない道を歩ませ、知らない通り道を行かせる。彼らの前で闇を光に、起伏のある地を平らにする。これらのことをわたしは行い、彼らを見捨てはしない。

異邦人というのは神様の律法が与えられておらず、出エジプトのような神様の救いの御業を経験していない人たちです。ですから、そのような人たちが霊的には暗闇の中をずっと歩き続けており、罪の牢獄の中にとらわれていたというのは打倒な表現だと思えます。そして、【主】はそのような暗闇の中におり、罪の牢獄の中に捕らわれている異邦人たちに、光を与え、真理を見えるようにしてくださり、その罪の牢獄から解放してくださったのです。これが私達、異邦人に対する救いです。

では、【主】の民イスラエルはどうだったのでしょうか。彼らは律法も与えられていたし、出エジプトという救いも経験しています。

そうであるのならば、彼らは神の民として光の中を歩んでいたのでしょうか。どうもそうではなかったようです。

1) イスラエルの現状

18節をみると、【主】は「耳の聞こえない者たちよ、聞け。目の見えない者たちよ、目を凝らして見よ。」と注意を促しておられます。なぜでしょうか。19節

42:19 わたしのしもべほど目の見えない者が、だれかほかにいるだろうか。わたしが送る使者ほど耳の聞こえない者が、ほかにいるだろうか。わたしと和解した者のような目の見えない者、【主】のしもべのような目の見えない者が、だれかほかにいるだろうか。

神様はイスラエルのことを「わたしのしもべ」「わたしが送る使者」「わたしと和解した者」と表現しています。神様にエジプトから救い出され、律法を与えられたイスラエルは、本来、【主】に従うしもべであり、【主】から世界に対して送り出される使者の役割が与えられているはずの人たちであり、そして、神様と平和な関係を築いているはずの人たちでした。

神様はそのために救い出し、律法を与えられたのです。ですから、イスラエルは、しもべとして、使者として、神様と平和な関係を持つものとして生きることを望まれていた人たちなのです。

ところが、神様はそのイスラエルの人たちのことをどのように言っているかというと、この「しもべほど目の見えない者が、だれかほかにいるだろうか」。この「使者ほど耳の聞こえない者が、ほかにいるだろうか」この「和解した者のような目の見えない者が、だれかほかにいるだろうか」といわれています。

これはいわゆる反語ですね。「他にいるだろうか」と疑問形と聞きながら、こんな人達は他にいない。ということを示しています。

神様に救われ、神様のみ言葉が与えられ、神様に選ばだされた民であるはずなのに、この人たちほど見えてない人たちは他にいない。つまり、私達、異邦人よりもわかっていない。と【主】は言われているのです。なぜ？ 20節に答えがあります。

42:20 あなたは多くを見ながら、心を留めない。耳が開いているのに、聞こうとしない。」

イスラエルは神様の御業をいっぱい見ているのです。そして、神様のみことばを誰よりもいっぱい聞いているのです。でも！ せっかく【主】が御業をみせ、御言

葉を聞かせていたとしても、その人達が神様の御業を心に留めない。その人達が神様のみことばを自分たちの内側に取り入れようとしないから、彼らは誰よりも見えない。誰よりも耳の聞こえない人になってしまっていたのです。

みなさん、これは私達にも当てはまります。私達は【主】イエスキリストによって救われました。とても感謝です。そして、神様の御業がわかるようになり、神様のみことばを聞けるものになりました。

でも、せっかくそのような恵みが与えられているのに神様の御業を心に留めない。神様のみことばを本当の意味で聞こうとしない。つまり、神様のみことばを実践しようとするならば、誰よりも霊的な真理が見えない、神様のみことばが聞こえない者になってしまうのです。

これはですね。ある意味で神様の救いの御業を経験していない。神様のみことばを聞いたことがない人たちの暗闇よりも、もっと深刻で、責任重大な罪を犯していることになります。

2) 神様がみことばを与える意味

なぜならば、神様は人々に救いを体験させ、神様のみことばを与えられるのには、大きな神様のみこころがあるからです。21節を読んでみましょう。

42:21 【主】はご自分の義のために望まれた。みおしえを広め、これを輝かすことを。

神様が心の中で、これこそが義なのだ。正しいことなのだ。と思っておられることは何かというと、神様のみおしえを広め、これは本当に素晴らしいものなのだ。と神様の栄光を豊かに輝かせることなのです。

イスラエルにはそのことが求められていたのです。ただ、神様が彼らを神の民にするだけじゃなくって、この神の民によって、【主】のみおしえを世界中に広め、神様の栄光を豊かに世界中に輝かせる。それがイスラエルの使命であり、神の民の使命でした。

みなさん、救われた私達の使命はなんでしょう。救われて良かったね。で、終わりじゃないんです。神様のみおしえ、神様のみことばを世界中に広げ、神様の栄光を世界中に輝かせることが私達の使命なのです。だから、イエス様は「あなたが

たは世の光です。山の上にある町は隠れることができません。」(マタイ 5:14) と言われました。

救われた者にはこの使命が与えられているのです。このようなことを望まれていたにも関わらず、イスラエルは神様の御業を見ながら、それに心を留めず、御言葉を聞きながらも、聞こうとしなかったのです。つまり、霊的な無視を決め込んだわけです。

3) 霊的な無視をする者の末路

そのようにして【主】に救われながらも、【主】を無視した者はどうなるかという
と、22節。

42:22 しかし、これは、かすめ奪われ略奪された民、彼らはみな穴の中に陥れられ、獄屋に閉じ込められた。かすめ奪われても、助け出す者はなく、略奪されても、返せと言う者もない。

ちょっとわかりにくいですね。リビングバイブルではこのように書かれています。

【LIB】

42:22 ところが、神様のおきてがどんなにすばらしいかを伝えるはずの国民は、なんと落ちぶれたことでしょう。略奪され、奴隷になり、畏にかかり、格好の攻撃目標となっても、だれひとり守ってくれる者がありません。

これはだいぶ意識なんですけども、聖書が言いたいこととしてはこうゆうことです。神様の栄光を表すはずの神の国の民が、落ちぶれて、本来持っているはずの神の国の恵みを奪い取られて、何もない状態になっている。そして、その恵みを返してください！ っていうっても誰も返してくれる人が居ない。そんな状態になってしまっているのです。

皆さん、【主】の御業を心に留めず、みことばを聞いても、本当の意味で聞いていない。自分の心の奥底に神様の言葉をいれ、その神様のことばによって生きるようにしていないのならば、本来、持っているはずの神様の恵みが奪われてしまって、自分の中にはなにもない。そんな状態になってしまうのです。

ただ、誤解しないでいただきたいのは、これは救いが無効になるとか。神の民が神の民でなくなるということではありません。既に何回もみてきていることですが、イスラエルは【主】に逆らい続けているにもかかわらず、見捨てられていません。それと同じように私達はキリストによって救われたので、たとえ【主】に逆らったとしても見捨てられないのです。

でも、いつも【主】の喜びを、神の国の恵みを味わえるかということ、私達が【主】から目をはなし、みことばを聞こうとしない状態になったのならば、その恵みが見えない。わからない。手元から奪いさらられているような、そんな状態になってしまうのです。

ですから、救われていたとしても霊的なスランプに陥ってしまう。恵みや喜びがわからない状態になってしまうことはあり得るのです。

問題はですね。聖書がこのように警告をしてくださっているわけですから、この警告のことばに、しっかりと耳を傾けることができているかです。

みなさん、今日のこのみことばを自分のために語られたみことばとして耳を傾けることができますか？ 【主】は言われています。23節。

42:23 あなたがたのうち、だれがこれに耳を傾け、後々のために注意して聞くだろうか。

これは直接的にはイザヤの時代のイスラエルの人たちに対してですが、私達に対してのことばでもあります。みなさん、私自身もそうゆう状態に落ち込むことがあるので自分自身のこととしていいますが、神様のみことばを礼拝で聞いているのに、毎日デボーションで読んでいるのに、実際にはちゃんと聞いていない。自分が従うことばとして聞いていない。ということが良くあります。

いやそればかりか、神様がみことばをよく聞きなさいっていつにいつに、聖書のみことばを読んだり、聞いたりするのは日曜日の礼拝のときだけ、日常では気が向いた時にしか、みことばを聞いていない。読んでいない。そうゆうことがクリスチャンでもよくあります。

みなさんは毎日、みことばを本当の意味でちゃんと聞いているでしょうか。何かの本にかかっている聖書の解説ではなくって、神様の言葉自体をみなさんがちゃんとときけているでしょうか。

今日のみことばはそれをしなさいと注意してくださっているのです。なぜならば、

それができていないと奪い去られて、閉じ込められてしまうからです。24節を読みましょう。

42:24 だれがヤコブを、奪い取る者に渡したのか。イスラエルを、かすめ奪う者に。それは【主】ではないか。私たちはこの方の前に罪ある者となり、主の道に歩もうとせず、そのおしえに聞き従わなかった。

みなさん、イスラエルをバビロンに渡し、イスラエルが持っているものを奪われるようにされた方は誰ですか？ 【主】なる神様です。

イスラエルが【主】の御業をみているはずなのにみず。みことばを聞いているはずなのに聞こうとしなかったから、【主】は彼らを一時的に彼らを奪う者の手に渡されたのです。

イスラエルがバビロンに捕らえられたのは、単純にバビロンが強かったからではないのです。そこに神様の意図があったのです。

どのような意図ですか？ イスラエルが本当の意味で悔い改めるという意図です。

みなさん、私達が救われているにも関わらず、喜びや恵みが見えなくなってしまうのだとしたら、それは私達が見るべきものを見ておらず、聞くべきものをちゃんと聞いていない。状態なのかもしれません。そして、その喜びや恵みがわからない状態は、悔い改めるようにとの【主】からのメッセージなのかもしれないのです。

みなさん、中には、「いや、神様の裁きを経験したら、さすがに誰でも悔い改められるでしょう」思う人がいるかもしれません。しかし、私達の心の頑なさというのはそんな簡単ではありません。25節を読みましょう。

42:25 そこで主は、憤ってこれに怒りを注ぎ、激しい戦いをこれに向けた。それがあたりを焼き尽くしても彼は悟らず、自分に燃えついても心に留めなかった。

これはつまりどうゆうことかということ、イスラエルは神様からの激しい怒りを注がれて、厳しい裁きを経験してもなお、神様のみこころを悟らず、悔い改めなかった。ということです。

みなさん、このイスラエル。もっと言うと南ユダ王国の人々はその王国末期に一

度悔い改めた時期がありました。それはどうゆう時かというと、ヒゼキヤ王の宗教改革の時です。ヒゼキヤがあらゆる偶像を壊し、みことばに従う事を民に命じた時、彼はこのようにいいました。

第二歴代誌 30:8

今、あなたがたは、自分たちの父たちのようにうなじを固くしてはなりません。【主】に服従しなさい。とこしえに聖別された主の聖所に来て、あなたがたの神、【主】に仕えなさい。そうすれば、主の燃える怒りがあなたがたから離れるでしょう。

聖書には「うなじのこわい民」とか、「うなじを固くする」といった表現がたびたび出てきます。これはどうゆうことかということ、みなさん、馬の操縦をイメージしていただきたいのですが、馬は手綱を通して引っ張られたり、もしくは右にちょっとひっぱられたり、左にひっぱられたりすると止まったり、右に曲がったり、左に曲がったりしてくれます。

「うなじを固くする」というのは、その馬の手綱をどんなに引っ張っても、右にやっても、左にやっても言う事聞いてくれない状態のことです。

そして、聖書はイスラエルの民のことを「うなじを固くする民」「うなじのこわい民」と度々表現しています

つまり、それはどうゆうことかということ。私達人間はそれだけ神様に逆らい、神様に従わない性質を強くもっているということです。

神様の燃える怒りを受けてもなお、逆らっていく。そうゆう頑固さというか、頑なさが私達の中にあるのです。

だからこそ、私達には聖霊様が必要なのです。この聖霊の働きについては来週ペンテコステなので来週細かくお話をします。

聖霊の働きについては来週のメッセージを楽しみにしていただくとして、では、私達はどうしたらいいのでしょうか。

まとめ) どうしたらいいのか?

頑固で頑なな人が、頑固でなくなるためすべきこと。それは【主】の愛に触れ、【主】の前にへりくだることです。第一ペテロ 5章 6,7節にはこのようにあります。

第一ペテロ

5:6 ですから、あなたがたは神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神は、ちょうど良い時に、あなたがたを高く上げてくださいます。

5:7 あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。

みなさん、どんなに忙しくても、どんなに辛くても、どんなに苦しくても、自分のことでにならないでください。

イザヤ書でさんざん、神様が「わたしに頼りなさい」と言っておられたように、自分たちで何かをするのではなくって、まずは自分がもっているものを全部、神様に明け渡しましょう。神様に明け渡すのは、自分が何をするかを決める権利も【主】にあけわたすということです。そのようにして自分の主導権を神様に明け渡し、神様の言われる通りにことをなしていく。

それがへりくだるということであり、神様を見て、神様のことばを聞くということです。【主】は

42:23 あなたがたのうち、だれがこれに耳を傾け、後々のために注意して聞くだろうか。

とされています。みなさんは今日のみことばを聞きましたか？そして、心に留められたでしょうか。そうであるのならば、今日のみことばを自分のこととして悟り、へりくだって悔い改め、【主】のみことばに従っていきましょう。